

行政視察等報告

(会派 公明党)

<視察目的>

- ・斜面地・空き家活用団体つくる 「つくる邸」
空き家対策について学ぶため
- ・長崎県島原振興局農林水産部島原地域普及課 「地域就農支援センター」
JA 島原雲仙「農援隊・収穫班」など、島原半島の先進的な農業振興の取り組みについて学ぶため
- ・熊本市街地、南阿蘇村
震災後 2 年を経過して、熊本城周辺の市街地復興状況及び、阿蘇山付近の復旧、観光の影響などの調査

<視察概要一覧>

視察月日	視察・研修先	視察施設	視察内容
平成 30 年 4 月 11 日 (水)	長崎県長崎市 斜面地・空き家活用団体つくる	つくる邸	空き家だった古民家を拠点とした地域づくりについて
平成 30 年 4 月 12 日 (木)	長崎県島原振興局 農林水産部島原地域普及課	地域就農支援センター	島原半島の農業振興の取り組みについて
平成 30 年 4 月 13 日 (金)	熊本市 熊本県阿蘇郡	熊本城周辺の市街地 阿蘇ファームランド	周辺視察 施設内見学

<視察概要報告>

1. つくる邸

- 対応者：斜面地・空き家活用団体つくる 代表 岩本 諭氏
- 概要：空き家であった築 70 年の古民家を改修し、この家を拠点として積極的に地域に入り、若者の視点でまちづくりに取り組んでいる活動状況を伺う。

<所感>

代表の岩本さんは、大学で斜面地の研究をしていた時、この坂のまちを好きになり、「たくさんの人に坂のまちの魅力を伝え、足を運んでもらいたい」と活動を始められました。そして、空き家を一戸再生してみようと仲間で自治会や大家さんの協力を得ながら築 70 年の古民家を見つけ改修し、「つくる邸」をオープンさせました。

普段は数人で暮らすシェアハウスとして活用しながら、不定期でフリーマーケット、朝ヨガ、花火鑑賞会などのイベントを行うなど、この「つくる邸」を拠点に積極的に地域に入って様々な活動をしながらまちづくりに取り組んでおられます。

地域性、状況は安来と全く違うかもしれませんが、ただ空き家があったからそこに住

むというだけでなく、その空き家を活用し地域の皆さまと共に若者がいろいろな活動をされているということにとっても感銘を受けました。このまちが好きという気持ちがあるからこそできる活動だと思えます。

「つくる邸」から見える長崎のまちの様子はとてもきれいでした。岩本さんがこのまちを好きになる気持ちがよくわかりました。

安来市も今後空き家が増えていくと思います。それをどう生かし、若者にも安来のまちを好きになり、まちづくりの一翼を担ってもらいたい。そのためにはどうしていったらいいのか。真剣に考えていかなければなりません。

とても素晴らしい青年に出会うことができました



2、地域就農支援センター

○対応者：長崎県島原振興局農林水産部島原地域普及課

課長 宮原 孝一氏

係長 中村 徳子氏

係長 竹邊 桂氏

○概要：・島原半島の農業振興

・産地の強化・育成に係わる労力支援

・フードクラスター協議会の取り組み

※ 以上の内容で説明を受ける

〈所感〉

島原半島は、雲仙普賢岳を中心とした丘陵地帯と有明海及び橘湾の海岸沿いの平野部からなる畑作の盛んな農業地帯です。農業総生産額は県全体の44.6%を占め、恵まれた気候・土壌条件を生かした多様な産地が形成された長崎県を代表する農業地帯であるとの説明でした。



JA 島原雲仙では人参部会、大根部会を設立され JA において出荷計画など一元的に管理を行い、高品質・安定出荷を実現されているとのこと。特に、洗浄処理能力向上のために農山漁村活性化プロジェクト交付金を活用し、処理能力を向上させ、収穫作業を拡大されています。

人参、大根については普賢岳の噴火以降黒ボク土になり土質が人参、大根の栽培に適したものになったと伺い少し複雑な思いもありますが、質のいいものが生産される

ことはいずれにしてもうれしいことなので多くの地域へ出荷されることを望むものです。

また、長崎県では「ふるさと雇用再生特別基金事業」を創設されこの基金を活用し、「ながさき農援隊設置事業」を平成21年から23年の3年間実施されました。その後、継続を望む声が多くJA独自の「JA島原雲仙農援隊」を設立され併せて「島原地域雇用労力支援協議会」が設立されました。人材確保はどこも同じだとは思いますが、1年を通して様々な野菜が出荷できるような体制を組まれていて、「農援隊」という独自の労力支援事業は特に特徴的なものでした。

普賢岳の噴火という災害を乗り越えそれをばねとし様々な取り組みをされている様子を伺いとても頼もしく思いました。

3、熊本城周辺市街地及び阿蘇ファームランド

○概要：熊本城の復旧工事状況

市街地の復旧状況及び観光客の動向

震災後の阿蘇ファームランドにおける観光客の来場状況

※ 以上の内容で視察、見学を行う。

〈所感〉

震災からちょうど2年が経過し、熊本城の復旧も少しずつ進んできていました。思った以上に熊本は都会だと感じました。震災以前の熊本の街のようすはわかりませんが、元通りというわけにはまだいかないと思いますが、今の熊本の街は賑わい、とても活気にあふれていました。しかし、市内はまだ工事をしているところもあり震災の爪痕が残っています。熊本のシンボル熊本城が一日も早く復旧し、以前のような賑わいが戻ることを願っています。

阿蘇ファームランドは大自然の中の健康テーマパークとして、地震の前はかなりの人たちが利用していた施設でしたが、今は使用できない施設も多くあり、平日という事もあつてか観光客、利用客はまばらでした。

様々な分野の医療・健康のプロフェッショナルが健康づくりのサポートをし、予防医学に基づいた実証や監査、情報発信などで健康増進に寄与することが目的で作られた施設ですが、その中の阿蘇ファームヴィレッジの宿泊施設は震災時には避難所の役割を果たしたとのこと。また、今日の昼からオープンするという飲食店の方と話しましたが、毎日ある程度の客が来なければ経営的には厳しいのではないかと思います。今の状況を見る限りとても大変だと思いました。しかし、意欲のある若者でしたので状況が厳しくとも頑張っしてほしいと思いました。

また、阿蘇の山々は崩落の跡が生々しく、地震の大きさを感じましたが、そこに生きる人たちは復興に向けたたくましく生きておられました。

阿蘇の雄大な景色に勇気と希望をいただきました。感謝です。

